



2. 地区の目指すべき方向性

(1) 地区を取り巻く環境の変化(社会情勢の変化・まちづくりの潮流)

1) 社会情勢の変化

人口減少・少子高齢化が進行する中、持続可能な社会の実現や働き方や生活様式の変化、デジタル化の進展など、社会情勢が大きく変化しています。

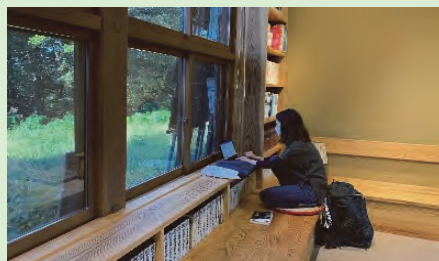
持続可能な社会の実現

SDGsの達成に向け、住み続けられるまちづくりの実現や環境への配慮に取り組むことが求められています。



働き方や生活様式の変化

コロナ禍以降、ひとつの場所にとらわれずに働くことが可能となり、暮らし方・住まい方にも大きな変化をもたらしています。



デジタル化の進展

情報通信技術の活用は私たちの生活になくしてはならない存在となっていますが、大量生産・画一的なサービスから、個々へのサービスへの転換が進行しています。



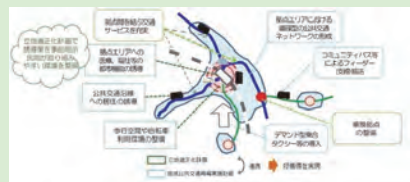
出典：デジタル庁「デジタル田園都市国家構想の取組イメージ全体像」

2) まちづくりの潮流

社会情勢の変化により、まちづくりに求められるもの、まちづくりの進め方等が変化しています。

コンパクト+ネットワーク

多様な世代が安心して暮らせるよう、医療・福祉施設、商業施設や住居等を駅周辺等にまとめて立地させ、地域公共交通との連携によるまちづくりが進められています。



出典：国土交通省「都市再生特別措置法」に基づく立地適正化計画概要

居心地よく歩きたくなる空間づくり

街路空間を車中心から“人中心”の空間へと再構築し、沿道と路上を一体的に使って、人々が集い憩い多様な活動を繰り広げられる場へとしていく取組みが進められています。



@Norihito Yamauchi

できることから始めるまちづくり

限られたヒト・モノ・カネを有効に活用していくために、使い方・使われ方の実証、検証の場として、まずはできること、できそうなことから始めるまちづくりが進められています。



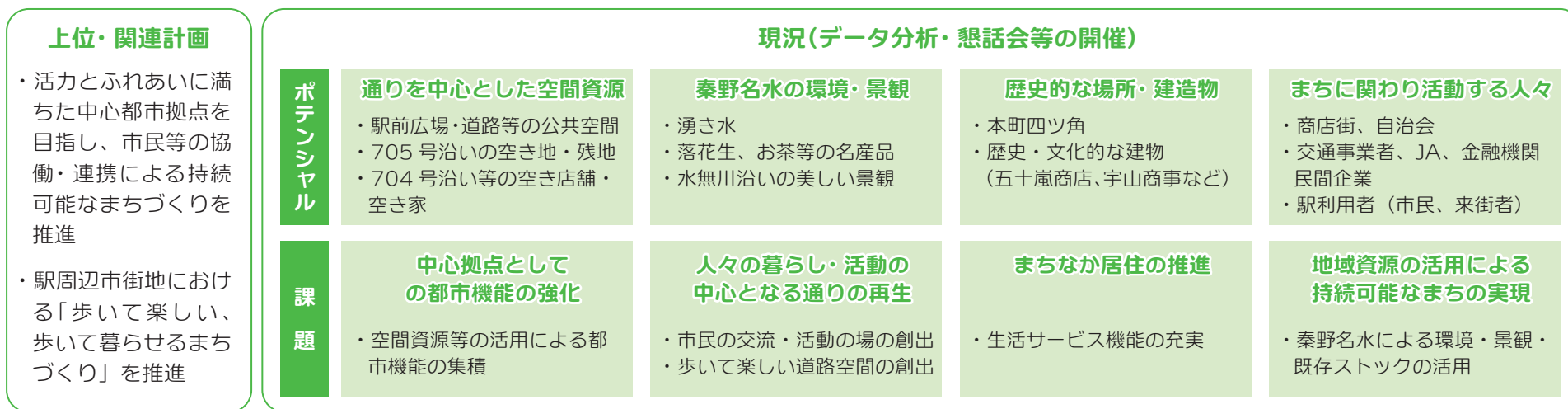
防災・減災まちづくり

自然災害の頻発・激甚化を踏まえ、ハード・ソフト両面からの防災・減災まちづくりが進められており、移動や滞在が行われるエリアは災害に対する安全性向上が求められています。



(2) 将来像(地区の目指すべき方向性)

上位・関連計画、地区の現況、社会情勢の変化・まちづくりの潮流を踏まえ、地区の目指すべき方向性を整理します。



社会情勢の変化・まちづくりの潮流

- コンパクト+ネットワーク
- 居心地よく歩きたくなる空間づくり
- できることから始める
- 防災・減災まちづくり

地区の将来像
(目指すべき方向性)

— 名水と歴史がつなげる未来 — しなやかな街なか暮らし

そのために必要なこと

はだのローカルを楽しみ発信する

はだの暮らし × 発信する	“はだの”人 × 交流する	水無川の景観 × 楽しむ
---------------------	---------------------	--------------------

まちなかの空間・建物に居場所をつくる

公共空間 × 憩う	空き地・空き家 × 使う	歴史的建造物 × 活かす
-----------------	--------------------	--------------------





3. 取組みの方向性

(1) 地区全体の取組みの方向性

はだの暮らし × 発信する

- 美味しいモノ、楽しいコト、魅力的なヒト等の“はだの”の情報を発信する場所・機会がある。
- 来街者ははだの暮らしの情報や魅力を知ることができる。

“はだの”人 × 交流する

- まちなかでお店を営んでいる人、地域活動をしている人等、“はだの”に関わる様々な人に出会い、交流することができる。

水無川の景観 ×楽しむ

- 水無川沿いには、安全安心で快適な歩行空間が確保され、景観を楽しむことができる。
- 水無川や丹沢の山々の景観を見ながら、ゆっくり過ごしたり、会話・飲食が楽しめる。

公共空間 × 憩う

- 駅や主要な施設を結ぶ道路は安全に快適に歩くことができ、道路沿いには、休憩したり、会話ができる場所がある。

空き地・空き家 × 使う

- 道路沿いの空き地・空き家等は、広場や集える空間となり、子どもたちが遊んだり、地域のサークル活動等に利用できる。

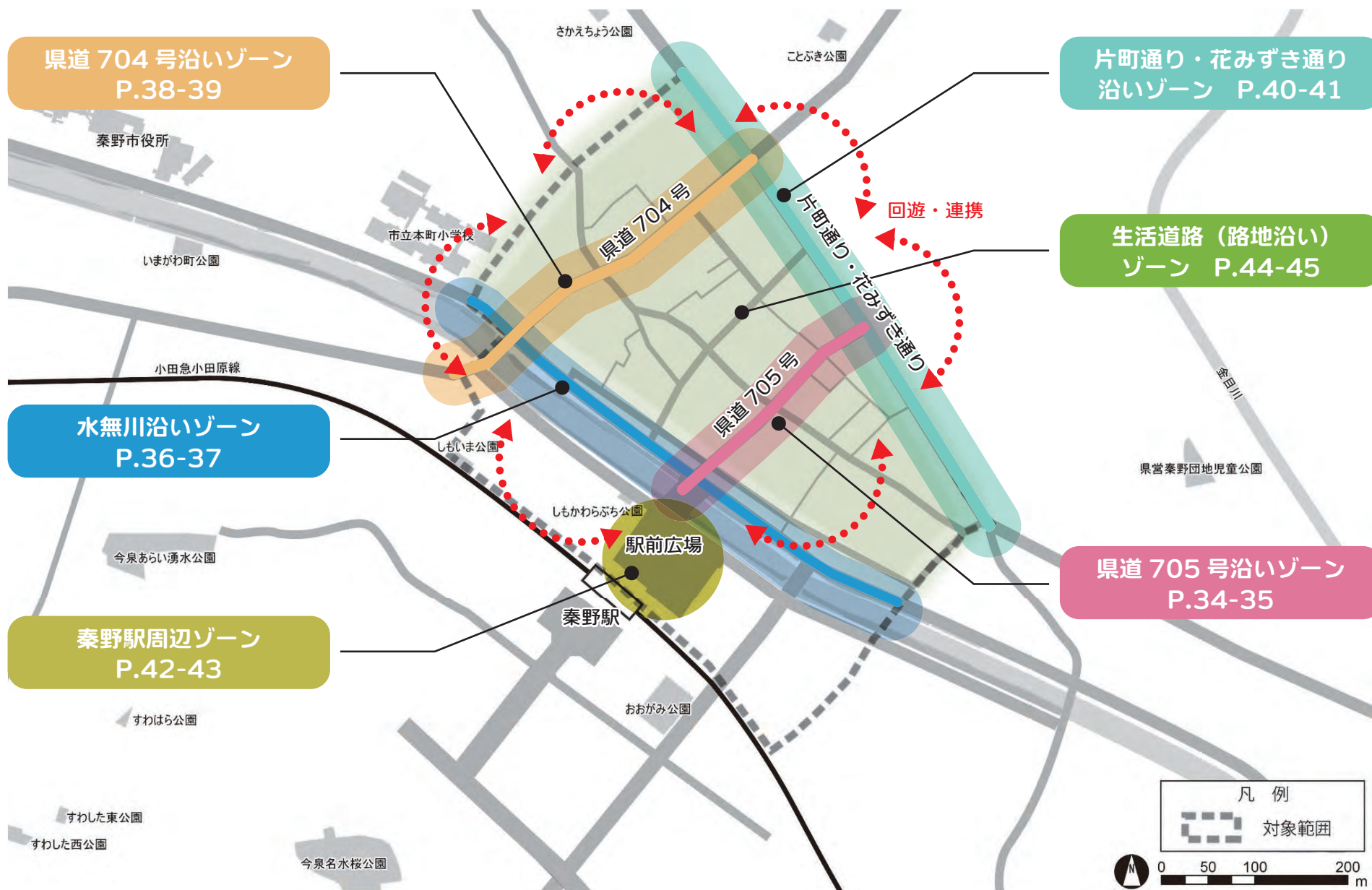
歴史的建造物 × 活かす

- 歴史的な街並みをゆっくり歩いたり、五十嵐商店などの地域の歴史的な建物で飲食や会話を楽しめる。



(2) ゾーン別の取組みの方向性

地区のポテンシャルと課題から分類した、6つのゾーン毎に、目指す将来の方向性を整理します。



1) 『県道705号沿いゾーン』の目指す将来の方向性

ポテンシャルと課題

- 秦野駅につながる動線として駅の利用が多く、拡幅工事も進んでいることから、沿道の利活用にポテンシャルがあります。
- 現状は通勤通学の通過動線となっており、駅利用者等が立ち寄り、過ごすことができる空間や場所の創出が望まれます。

目指す将来の方向性

- 沿道に人々が集まる広場や建物が立地し、多様なアクティビティが生まれています。

過去

駅前通りとして商店が立ち並び活気ある通りでした。



現在

通勤通学の通過動線となっており、人が立ち寄る場がありません。



将来

安全に快適に歩くことができ、道路沿いには、休憩したり、会話ができる場所があり、人々の多様なアクティビティが生まれています。

将来のイメージ



目指す将来に向け、取り組むべきこと

沿道の「交流」を生み出す仕掛けづくり

沿道の未利用地等を活用したオープンカフェなどの滞留空間の創出、交流拠点の創出検討等

名水のまち“はだの”の中核となる拠点が形成され、地域の人と“はだの”を訪れる人との様々な交流が生まれている

公共空間 × 憩う

“はだの”人 × 交流する

はだの暮らし × 発信する

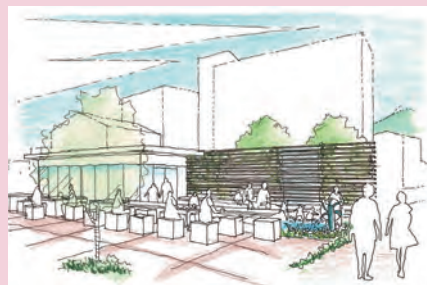
将来の空間イメージ



Google earth (画像取得日: 20201104 以降)

- 交流拠点では、地域の文化拠点として、小さな子供が安全に遊べる場や仕事や勉強のできる場が整い、地域の多様な人々に利用されています。
- 秦野名水を体感できるなど、“はだの”の魅力を発信する場が設けられ、来街者と地域の人々が自然に交流し、新たな活動が生まれています。
- 拠点のにぎわいが通りにも波及し、多くの人が行き交っています。

将来のイメージ

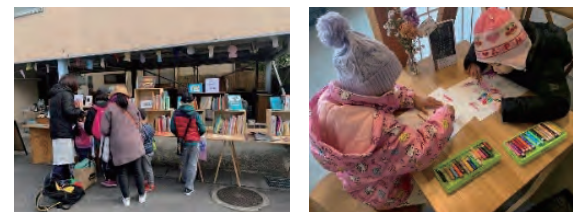


実現に向けた取組みと取組みのプロセス

まずは
やってみる

にぎわいの効果を測る

県道 705 号沿道の未利用地や建物などを活用し、子供の遊び場や休憩スペースを設ける。沿道の店舗などとも協力し、テイクアウトの飲食を提供してもらい、人のたまり場をつくることで、にぎわいの効果を測り、拠点の創出につなげる。



交流拠点の場づくり

公共用地などを集約し、地域住民や来街者等の交流の場・機会を創出する。

将来実現
したいこと

はだの暮らしに欠かせない交流・情報発信拠点の形成

はだのの人々の暮らしに欠かせない交流・情報発信拠点となる。

2) 『水無川沿いゾーン』の目指す将来の方向性

ポテンシャルと課題

- 湧き水による美しい河川景観が広がります。
- かつては川沿いに活気あるサクラマーケットがありました。
- 景観・環境を活かした川沿いの利活用が望まれます。

目指す将来の方向性

- 水無川沿いには川を眺めながら歩けるスペースや休憩スペースがあり、水無川を身近に感じることができる新たな“はだの”の名所が生まれています。

過去

川沿いには活気ある「サクラマーケット」が存在しました。



現在

人がとどまるスペースが少なく、居心地の良い景観・環境が活かされていません。



将来

川を眺めながら安全に歩けるスペースには、お店等が並び、水無川の景観・環境を楽しむことのできる新たな“はだの”の名所が生まれています。

将来のイメージ



目指す将来に向け、取り組むべきこと

水無川沿いの「活気」を生み出す仕掛けづくり
道路を活用した社会実験等

川沿いに人を滞留させる場所づくり
日常的なイベントの実施や滞留施設の設置等

川沿いに人のための空間が生まれ、人々が思い思いに歩き、憩い、水のある居心地の良い空間を楽しんでいる

水無川の景観 ×楽しむ

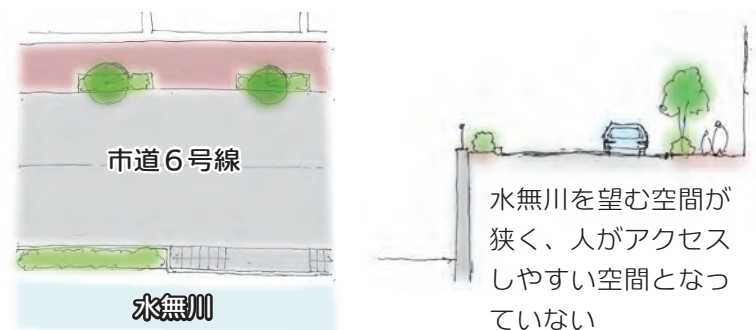
公共空間 ×憩う

“はだの”人 ×交流する

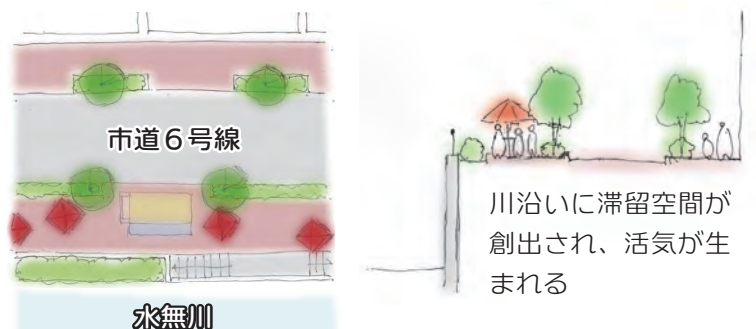
現在の水無川沿いの道路空間（市道6号線）



Google earth (画像取得日: 20201104以降)

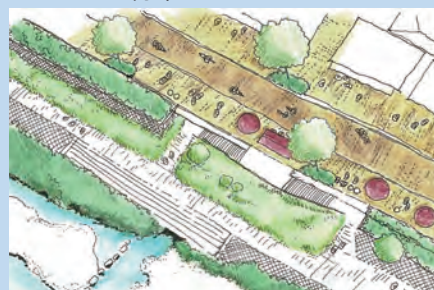


例えば...



- 水無川沿いには、安全安心で快適な歩行空間が確保され、歩いたり、休んだりしながら水辺の佇まいを楽しむことができます。
- テーブル・ベンチなどが沿道に設けられ、水無川や丹沢の景観を見ながら、ゆっくり過ごしたり、会話・飲食が楽しめます。

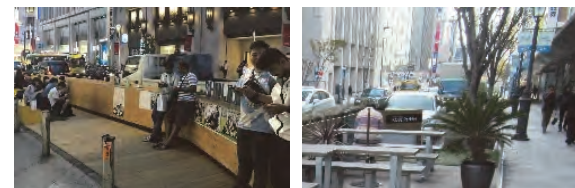
将来のイメージ



実現に向けた取組みと取組みのプロセス

まずは やってみる 滞留空間と交通環境のあり方の検証

河川空間や市道6号線を活用し、丹沢の山並みや水無川を眺める視点場や滞留空間を創出し、アクティビティの変化や交通への影響等を確認・検証する。



道路改変による人中心の空間づくり

効果検証を経て、周辺の道路ネットワークに影響のない様に幅員構成や交通規制を変更し、川沿いの景観・環境を楽しむことができる人のための空間を生み出す。

将来実現したいこと 駅とまちなかをつなぐ景色が豊かになり、水無川沿いを歩く人や過ごす人が増える

水無川沿いを人が行き交い、楽しそうに留まることで、沿道の景色が豊かになり、まちなかに向かう人が増える。

3) 『県道704号沿いゾーン』の目指す将来の方向性

ポテンシャルと課題

- かつて十日市場が立ち、街道として栄えた人々の活動・交流の中心地でした。
- 人通りが少なく、人々の活動・交流を促す仕掛けや仕組みが望まれます。

目指す将来の方向性

- かつてのにぎわいが再生し、人々が行き交い、活気ある沿道空間が生まれています。

過去

本町四ツ角を中心に地区のにぎわいの中心地です。



現在

人が立ち止まれる場が少なく、沿道のにぎわいに欠けています。



将来

建物や通り沿いに人々の活動・交流の場が創出され、“はだの”に関わる様々な人に出会い、交流することができる場となっています。

将来のイメージ



目指す将来に向け、取り組むべきこと

沿道の「にぎわい」を生み出す仕組みづくり

沿道店舗による滞留スペースの確保や空き店舗等を活用した交流の場所づくり等

『県道 704 号沿いゾーン』の目指す将来のイメージ

沿道に小さな「たまり場」が創出され、地域の会話や交流が活発になり、活気ある日常が生まれている

“はだの” 人 × 交流する

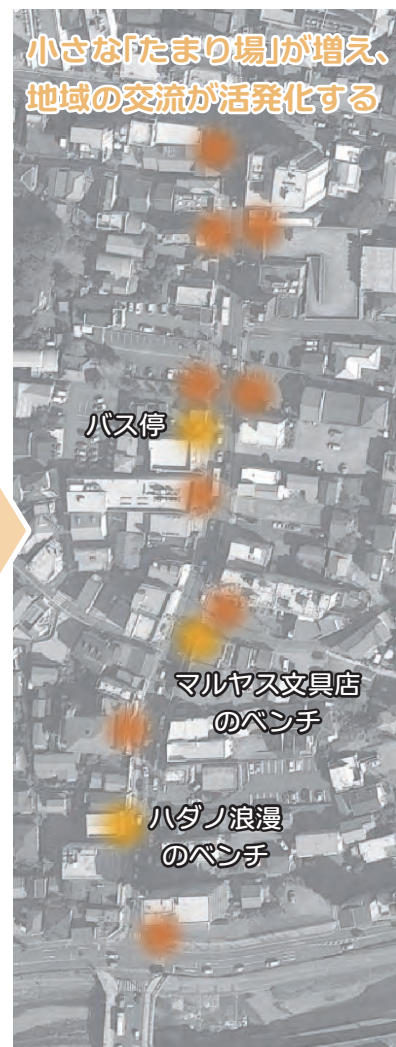
空き地・空き家 × 使う

はだの暮らし × 発信する

現在の沿道空間



将来の空間イメージ



Google earth (画像取得日: 20201104 以降)

- 乗り継ぎのハブであるバス停は便利で快適な環境が整備されており、利用者同士の交流が生まれています。
- 空き店舗の1階を活用した休憩スポットや、沿道の店先に座って休める場所が設けられており、地域の案内板や道案内が併設され、多様な人や世代にやさしい道がつけられています。
- 休憩スポットで出会った人同士の会話が生まれ、沿道に活気が生まれています。

将来のイメージ



実現に向けた取組みと取組みのプロセス

まずは
やってみる

休憩スポットをつくる

県道 704 号沿いの店舗と協力し、座って休める休憩スペースを設ける。
案内板を設け、人々の行動の変化やどのような情報が有効か等、効果を測ってみる。



空き店舗等を活用した休憩スポットを創出する

空き店舗の1階などを活用し、会話を楽しんだり、地域の情報を入手できる休憩スポットを創出する。

将来実現
したいこと

沿道に人が居る風景が増えていく

小さな「たまり場」が増え、そこから地域の交流が生まれ、人の居る風景が増えていくことで、はだのらしさを感じることができる。

4) 『片町通り・花みずき通り沿いゾーン』の目指す将来の方向性

ポテンシャルと課題

- 歴史的建造物が多く立地しています。
- 空き店舗が多く、歴史・文化的資産の利活用が望まれます。

目指す将来の方向性

- 空き店舗を活用した、若い世代による小さな店舗や活動拠点が立ち並ぶようになり、文化的な空間に人々が行き交い、沿道が活気にあふれています。

過去

歴史的な建造物が多く立地しています。



現在

空き店舗が多くシャッターが目立ちます。



将来

空き店舗を活用した、若い世代による小さな店舗や活動拠点が立ち並ぶようになり、歴史的建造物とも良く馴染む文化的な空間が創出され、沿道が活気にあふれています。

将来のイメージ



目指す将来に向け、取り組むべきこと

沿道の店舗等を「開く」仕組みづくり

沿道全体で空き店舗を効率的に貸す仕組みの構築等

『片町通り・花みずき通り沿いゾーン』の目指す将来のイメージ

空き店舗の活用によりお店や仕事などスタートアップを始める人々が増え、沿道に活気を生み出している

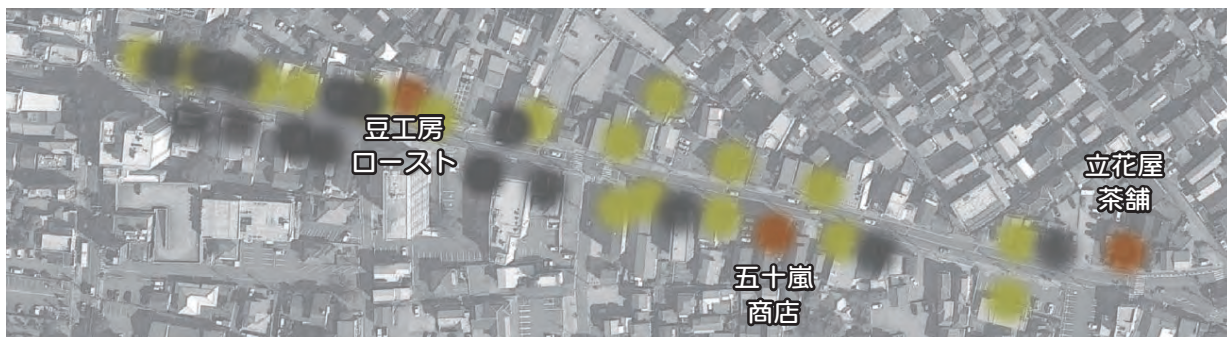
歴史的建造物 × 活かす

空き地・空き家 × 使う

“はだの”人 × 交流する

現在の沿道空間

・・・沿道にシャッター店舗（グレーの点）が並ぶ



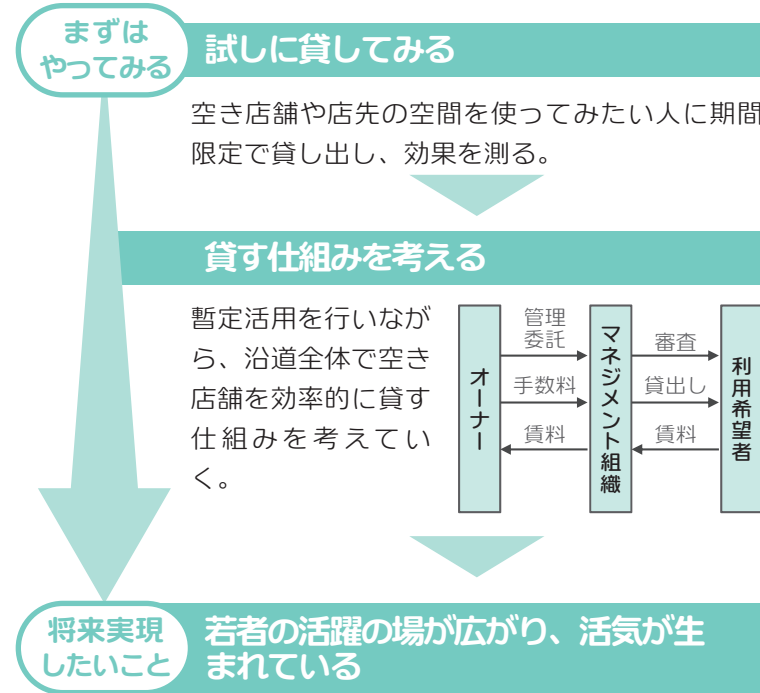
将来の空間イメージ

・・・新たな店舗や活動拠点が沿道に立ち並ぶ



Google earth (画像取得日：2021104以降)

実現に向けた取組みと取組みのプロセス



新規出店等がしやすい体制・環境が整い、若者の活躍の場が広がり、活気が生まれている。

- 新しくお店や仕事を始めたい人が空き店舗を使うようになり、沿道に人が行き交っています。
- 昔からある店舗と新しい店舗や活動拠点との交流が生まれています。
- 点在する歴史的建造物とアーティストのコラボレーションが生まれることで、“はだの”ならではの文化的なイベントが継続的に行われています。

将来のイメージ



5) 『秦野駅周辺ゾーン』の目指す将来の方向性

ポテンシャルと課題

- 市内4駅の中で駅利用者が多く、まちの玄関口としてのポテンシャルがあります。
- 電車やバス等の待ち時間等を過ごす場所や観光客等の来街者が利用できる施設が少なく、滞留できる場所や空き店舗の利活用が望まれます。また、まちの玄関口として安全・安心に利用できる環境整備が望まれます。

目指す将来の方向性

- 秦野の玄関口として、多くの人が便利に快適に利用できる居心地の良い駅前空間が生まれています。

過去

農業から工業へと産業の転換後に発展してきました。



現在

立ち寄れる場所が少なく、駅と目的地の通過点となっています。



将来

“はだの”の玄関口であり、新たな目的地である秦野駅には、市民や来街者が多く訪れ思い思いに過ごすとともに、北側市街地に向かう人の流れも生まれています。

将来のイメージ



目指す将来に向け、取り組むべきこと

駅や駅前が目的地となる仕掛けづくり
オープンスペースの有効活用等

『秦野駅周辺ゾーン』の目指す将来のイメージ

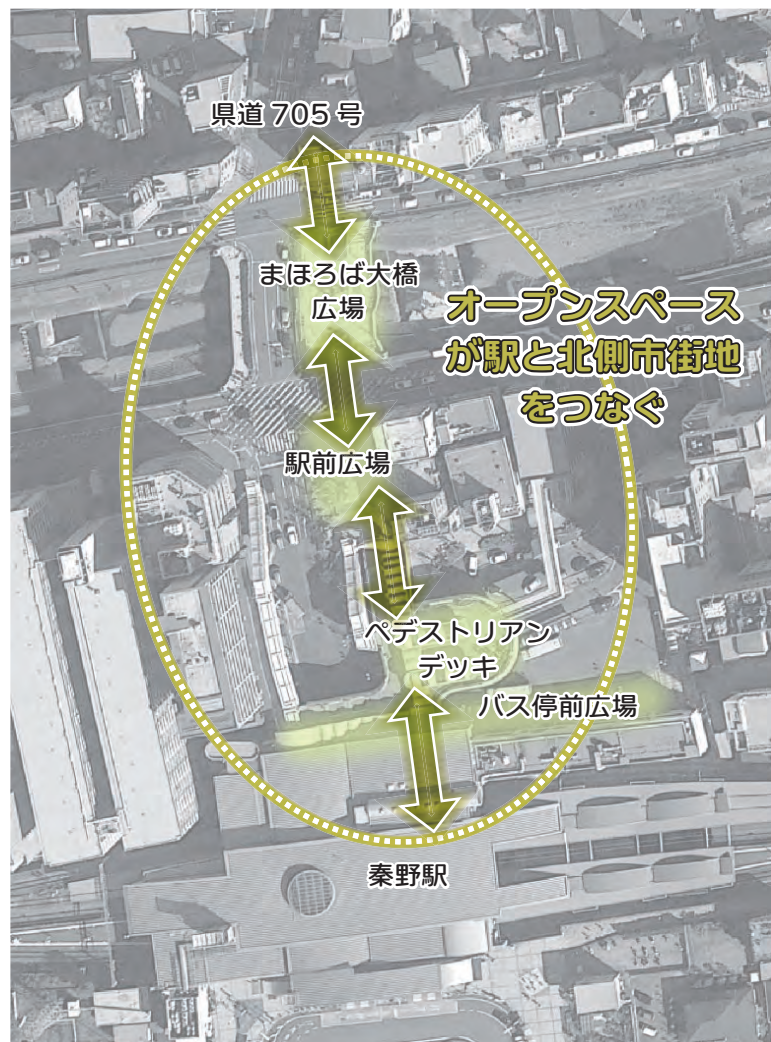
“はだの”の玄関口かつ新たな目的地として機能し、駅前からまほろば大橋、県道705号へとつながる人の流れが生まれている

はだの暮らし × 発信する

公共空間 × 憩う

“はだの”人 × 交流する

将来の空間イメージ



Google earth (画像取得日: 20201104以降)

- 駅前のバス停付近には人が溜まれるスペースが設けられ、安心してバスを待ちたり休憩が出来るようになっています。
- 駅前広場やペデストリアンデッキ、まほろば大橋には、“はだの”らしさを感じられる場所であり、快適に過ごせる場所となっています。
- 週末はマルシェやイベントが行われ活気にあふれています。
- オープンスペースは災害発生時には地域の人や駅利用者の一時避難場所として機能します。

将来のイメージ



実現に向けた取組みと取組みのプロセス

まずは やってみる 居心地よいオープンスペースをつくってみる

駅前広場やペデストリアンデッキ、まほろば大橋に、日よけのあるテーブルベンチや、植栽等のグリーンファニチャーなどを置き、使われ方や駅からの人の流れを確認する。

ニーズを踏まえ、新たな機能を導入する

使われ方等からニーズを整理し、人々の目的地となる新しい機能を駅前に導入する。



将来実現したいこと 交通利用以外の新たな目的地となる

駅周辺が電車やバスの利用以外の新たな目的地となり、駅と北側市街地に人の流れが生まれている。

6) 『生活道路(路地沿い) ゾーン』の目指す将来の方向性

ポテンシャルと課題

- 住宅地の中で、路地沿いに風情のある店舗や住宅などが点在しています。
- それぞれの路地の歴史や特徴が活かされておらず（知られておらず）歩きたくなる工夫が求められます。

目指す将来の方向性

- 路地マップを見ながら、路地空間を歩く姿や、路地沿いのお店でゆっくりとくつろぎ、会話を楽しむ姿が見られます。

過去

路地沿いに昔ながらの商店や住宅が並んでいます。



現在

路地沿いにお洒落な店舗が点在していますが、歩きたくなる空間にはなっていません。



将来

路地にはそれぞれの店舗の個性がにじみだし、路地空間を楽しむ人や、オープンスペースでくつろぎ、会話を楽しむ人々の姿が見られます。

将来のイメージ



目指す将来に向け、取り組むべきこと

個性あるまちなみづくり

空き店舗、空き地等を利用した立ち寄りたくなるスペースづくり等

『生活道路（路地沿い）ゾーン』の目指す将来のイメージ

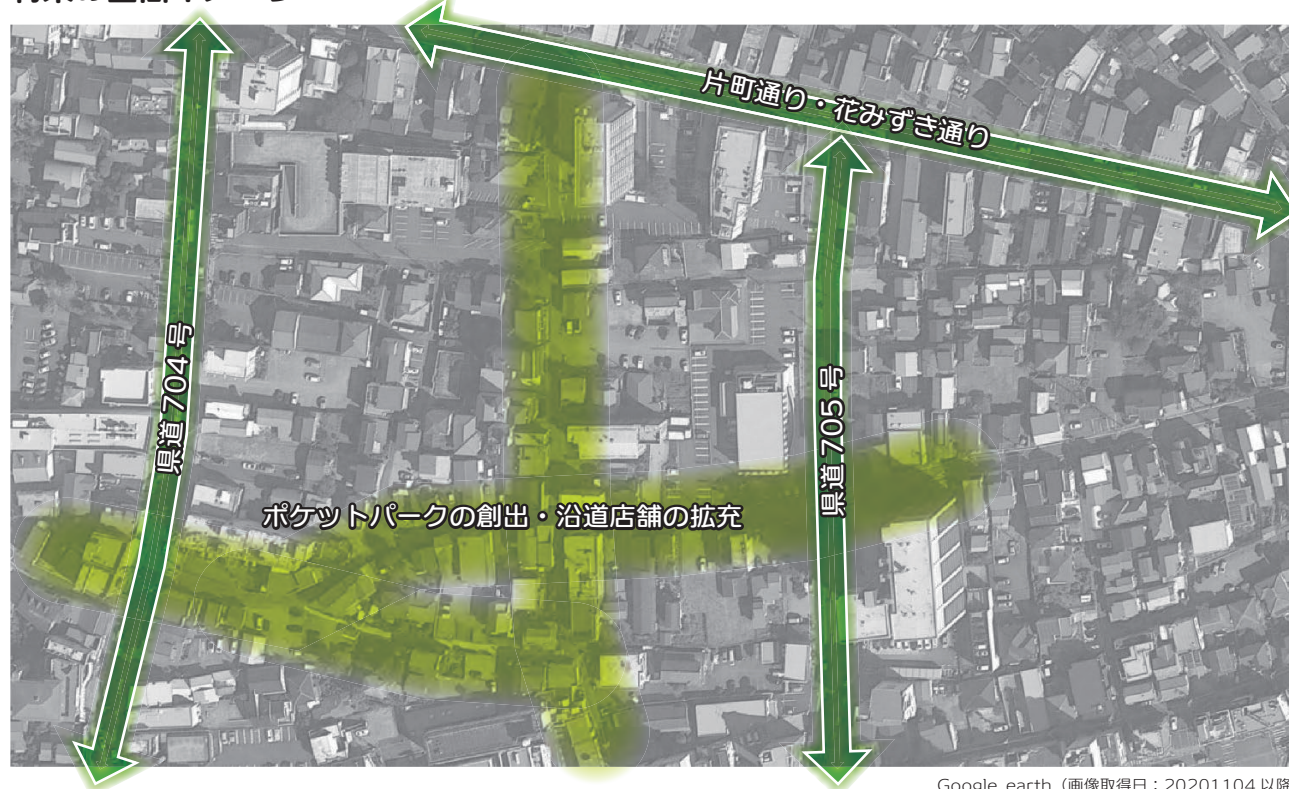
路地沿いに個性的な店舗が点在し、沿道では散策を楽しむ人々と地域の交流が生まれている

空き地・空き家 × 使う

公共空間 × 憩う

“はだの”人 × 交流する

将来の空間イメージ



Google earth (画像取得日：20201104以降)

実現に向けた取組みと取組みのプロセス

まずは
やってみる

店先・軒先の空間を使ってみる

周辺の店舗に協力してもらい、店先・軒先の空間を使ってみて、効果を測る。

休憩・会話が出来るまちなかの
憩いの場の創出

空き地等を活用した休憩スペースを設けてみる。
周辺の店舗に協力してもらい、テイクアウトの利用を促し設置の効果を測る。

将来実現
したいこと

“はだの”ならではの路地空間
の創出

はだの人の暮らしを感じることができ、つい足を延ばしたくなる、魅力ある路地空間が形成される。

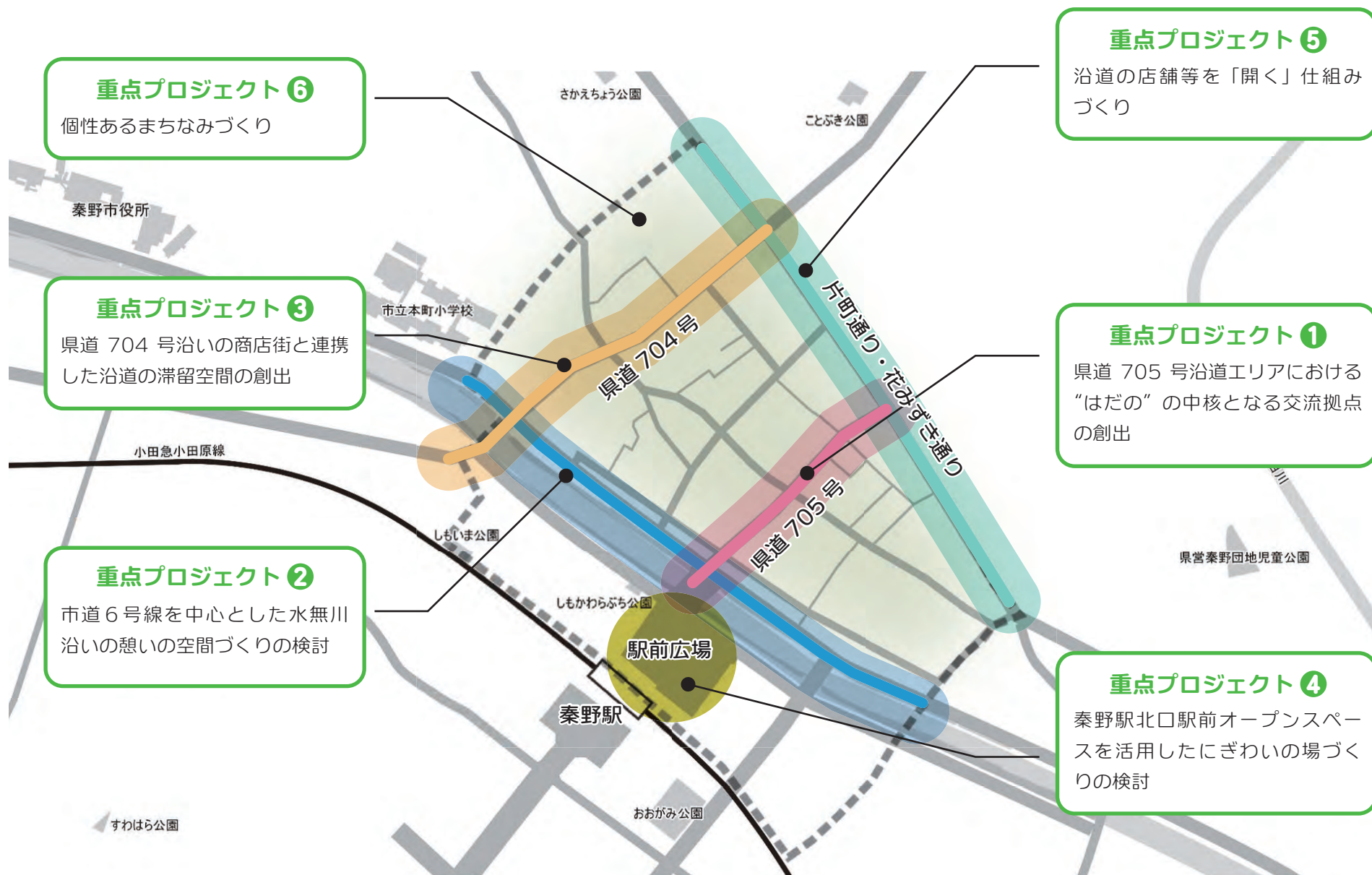
- ひがしみちを中心に、路地沿いに個性的な店舗が点在するようになり、散策を楽しむ人々が数多く見られます。
- 空き地を利用したポケットパークで、訪れた人がくつろいだり、会話や飲食など、思い思いに過ごす光景が見られます。
- 暮らす人、働く人、まちを訪れた人との交流が生まれています。

将来のイメージ



(3) 重点プロジェクト(優先的・短期的に取り組むプロジェクト)

本ビジョンの実現に向け、優先的に取り組むべき課題を有し、あわせて、より高い効果が期待される取組みを「重点プロジェクト」と位置付けます。



重点プロジェクトのロードマップ

主に官民で行う取組み

主に公共で行う取組み

取組み内容	短期 (R5~9)					中期 (R10~14)	長期 (R15~)
	R5	R6	R7	R8	R9		
① 県道 705 号沿道エリアにおける“はだの”の中核となる交流拠点の創出	社会実験の実施 (できる所から始める) エリアプラットフォームの運営	社会実験の継続 (日常の場・活動に) エリアプラットフォームの体制強化	持続的な事業活動へ に向けた仕組みづくり		自立した事業 活動へ発展	拠点の一体的な 活用・運営 拠点形成から波及 した定住促進等	
	拠点形成に向けた 未利用地等の活用方策の検討		事業化に向けた検討・調査 上位関連計画への位置付け		拠点創出に向けた事業推進		
② 市道 6 号線を中心とした水無川沿いの憩いの空間づくりの検討	社会実験の実施 (交通影響・人の滞留の検証) エリアプラットフォームの運営	社会実験の継続 (日常の場・活動に) エリアプラットフォームの体制強化	持続的な事業活動へ に向けた仕組みづくり		自立した事業 活動へ発展	水無川沿い空間の一体的な 活用・運営 道路再編やウォーカブルの推進等	
	社会実験を踏まえた道路空間等の あり方検討		実現方策の検討 上位関連計画への位置付け		道路空間等の再編		
③ 県道 704 号沿いの商店街と連携した沿道の滞留空間の創出	取組み体制の構築	社会実験の実施 (①②と連携しながら進める)		運営体制の強化		滞留空間の一体的な 活用・運営	
④ 駅前オープンスペースを活用したにぎわいの場づくりの検討	取組みへの協力	駅前広場等のあり方検討・関係 機関との調整		駅前広場等の活用促進		ウォーカブルの 推進等	
⑤ 長期的に進める取組み 沿道の店舗等を「開く」仕組みづくり	片町通り・花みずき通り沿いの空き店舗等 の暫定活用			暫定活用を行いながら、恒常的な活用 に向けた仕組みの構築		新たな店舗等 の立地	
⑥ 長期的に進める取組み 個性あるまちなみづくり	路地沿いの店先・軒先、空き地等の活用			広場等の滞留空間の必要性や方向性等 について検討		滞留空間の 創出・活用	

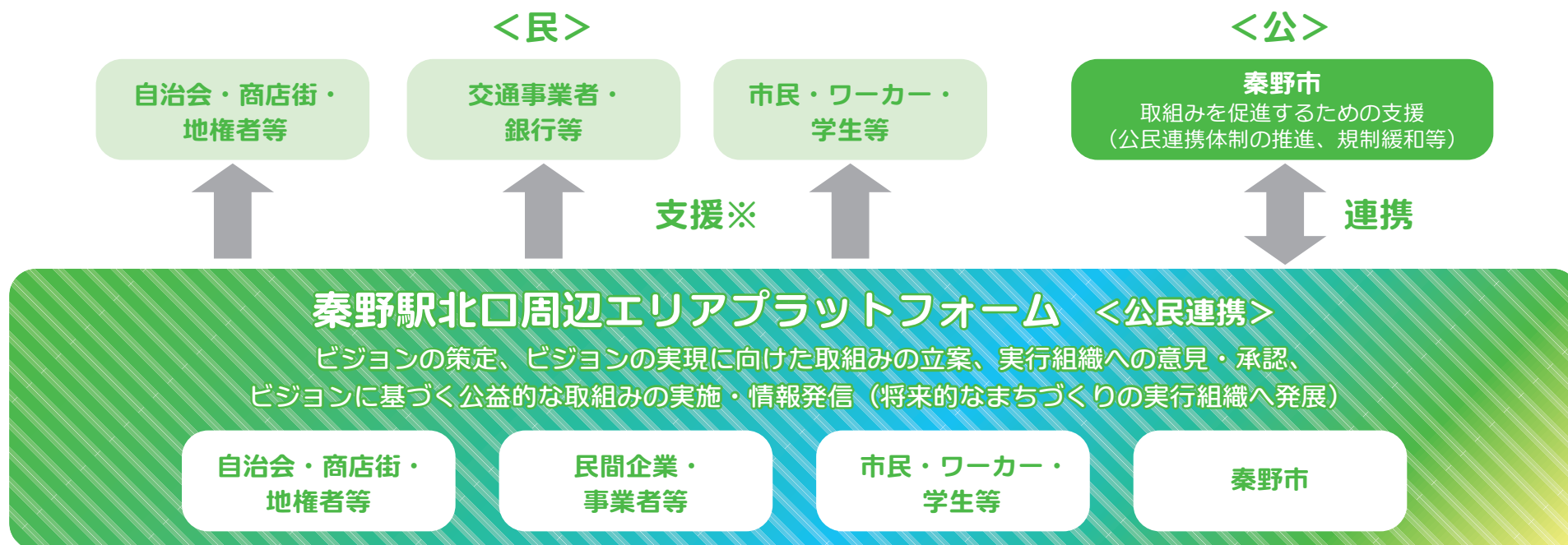


4. 将来像の実現に向けた公民連携の役割

(1) 将来像の実現に向けた公民連携の役割と推進体制

秦野駅北口周辺のビジョン実現のためには、民間（市民や企業、事業者等）と行政（秦野市）が、それぞれ意思と責任を持ち、適切な役割分担により連携していく必要があります。

また、ビジョンの実現に向けた具体的取組みについて、関係者が意見を出し合いながら合意形成を行う組織と、長期的な視点を持ち、社会や環境の変化にも対応しながら、ビジョンの実現方策に取り組んでいく実行組織が、両輪で推進していく必要があります。



※支援のイメージ(エリアプラットフォームの役割・あり方)



様々な主体の「やりたいこと」「実現したいこと」等個別の取組みを支援する



人・もの・場所等をつなげ、取組みの連携を支援する（取組みの効果を高める）



様々な主体・取組みの交流、情報の共有・発信等を支援する

(参考) 将来像の実現に向け進めていく小さな取組みチェックリスト

ビジョン実現のためには、事業を推進する組織が進める取組みだけでなく、市民の皆さんが自分事として捉え、小さな取組みを積み重ね、大きく育てていくことが重要です。まずは小さなことから“やってみる”ことをはじめてみましょう。

チェック欄

やってみることに挑戦

通りにゴミが落ちていたら拾ってみる、自宅や店舗前の通りを綺麗にする

丹沢の山々を背景に、水無川の夕焼けを SNS にアップしてみる

友達との待ち合わせにまほろば大橋や駅前広場を使ってみる

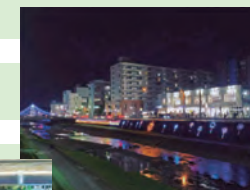
704号沿いのバス停などに座ってみて、まちを眺めてみる

通りを散策し、気になるお店に入って買い物をする

この地域ならではののお店に入って、休憩や食事をする

この地域ならではの祭りやイベントに行ってみる

清掃・防犯活動等、地域活動に参加する



ほかにもやってみることに挑戦

やってみることを増やしていく

用語の解説

ア行

アクティビティ

まちづくりにおいて、食事や買い物、スポーツといった、人々がまちで行う様々な活動を意味する

ウォークアブル

直訳すると歩きやすいという意味であるが、まちづくりにおいては、居心地が良く歩きたくなるという意味で使われる

SDGs

持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals)。2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17のゴール・169のターゲットから構成

エリアプラットフォーム

まちづくりの担い手であるまちづくり会社・団体、まちづくりや地域課題解決に関心がある企業、自治会・町内会、商店街・商工会議所、住民・地権者・就業者、行政などが集まって、まちの将来像を議論し、その実現に向けた取組について協議・調整を行うための場

オープンスペース

敷地内の空地または公園、広場、河川、農地等の建物によって覆われていない土地の総称

カ行

既存ストック

これまで整備されてきた道路、公園、下水道や公共施設、建築物等の都市施設を指す

居住誘導区域

市街化区域の一定エリアにおいて、人口密度を維持し、生活サービスやコミュニティが持続的に確保されるよう居住を誘導する区域のこと

高次都市機能

医療、福祉、商業等の都市機能のうち、広域の地域を対象とした質の高いサービスを提供する機能

公民連携

公(行政)と民(民間企業等)が連携して様々なサービスを提供する取組み

コラボレーション

異なる分野や職種の人達による共同作業、共同制作のこと

コンパクト+ネットワーク

人口減少・高齢化が進む中、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、多様な世代が安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めることが重要という考え方

サ行

社会実験

新たな施策を本格的に導入する前に、場所や期間を限定して地域の方々とともに試行する取組み
社会実験の実施により、新たな施策の課題や効果などを、本格導入の前に把握できる

スタートアップ

始めること、立ち上げることを意味するが、広い意味では新規事業やベンチャー企業、狭い意味では新しい市場やビジネスモデルを開拓し急成長を狙う企業形態を指す

生活サービス施設

まちで暮らす人々に必要な公共交通、医療、福祉、子育て支援、商業などの施設

扇状地

狭い山間地を流れる急流河川が広い平坦地に出た時、その流れが弱まることにより、運ばれてきた土砂が扇状に堆積してできた土地

夕行

滞留空間

立ち止まることのできる、人が留まれる場所

代表交通手段分担率

トリップ（ある1つの目的での、出発地から到着地までの移動）の総量に占める代表交通手段毎の割合

電線地中化

道路の電柱や電線類を地中化することにより、安全性や景観面の向上を図ること

低未利用地

既成市街地内の更地、遊休化した工場・駐車場、商店街の空き店舗、密集住宅地内の空家等、有効に利用されていない土地

都市機能

医療・福祉・教育・商業等、市民生活や企業活動等の都市の活動を支える機能

都市機能誘導区域

都市拠点に公共・医療・福祉・商業等を誘導集約し、これら各種サービスを効率的に提供する区域のこと

土地区画整理事業

まちづくりの実現手法の1つで、道路、公園、河川等の公共施設を整備・改善し、土地の区画を整え宅地の利用の増進を図る事業

ナ行

ニーズ

相手（利用者等）が求めているもの、要求

ハ行

ポケットパーク

街の一角などに設けられる小規模な公園

ポテンシャル

潜在的な能力、将来の可能性、発展性

ラ行

ライフスタイル

生活様式。衣食住だけでなく、交際や娯楽等も含む暮らしぶりを指す

立地適正化計画

都市全体の観点から作成する、居住機能や福祉・医療・教育等の都市機能の立地、公共交通の充実等に関する包括的な計画。平成26年8月の都市再生特別措置法の改正により立地適正化計画制度が創設された

リノベーション

今あるものを活かしつつ、用途や機能を変更して性能を向上させたり価値を高めたりすること

6次産業化

1次産業としての農林漁業と、2次産業としての製造業、3次産業としての小売業等の事業との総合的かつ一体的な推進を図り、農山漁村の豊かな地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取り組み

令和5年（2023年）X月発行

編集・発行：（仮称）秦野駅北口周辺にぎわいのあるまちづくりエリアプラットフォーム

